



トップニュース：「鉄道を残す」国土交通省鉄道局

去る11月6日(土)第1回鉄道まちづくり会議 in 平田が島根県平田市で開催され、全国の鉄道事業者、鉄道の問題を抱える行政、市民団体、一般市民等が参加しました。この鉄道まちづくり会議は会長を勝山市の山岸正裕市長が務めておられるため、昨年の鉄道まちづくり会議設立を決めた鉄道まちづくりシンポジウム in 勝山と同様、福井県内関係者の皆さんも多数参加されました。基調講演は国土交通省鉄道局財務課長の室谷正裕氏でしたが、その中で「鉄道を残す。そのために取り組んでいく」という趣旨の発言があったのが印象的で、参加者は大変心強く感じたと思われます。また、パネルディスカッションの中で、コーディネーターの京都大学の中川大 助教授から、「赤字を補填するというのではなく、効果に対して税金を投入するという考え方が必要」という発言がありましたが、福井でも問題視された「赤字」という概念を改める時期に来ているのではないかと改めて考えさせられました。全体として有意義な会議でした。(文：清水)

活動報告

- 10月22~24日 全国路面電車サミット in 高知
- 11月4日 まちづくり懇談会オープンセミナー
「まちなか駐輪場の適正配置と放置自転車について」
- 11月5日 鉄道まちづくり会議交流会参加
- 11月6日 鉄道まちづくり会議 in 平田参加
- 11月7日 マイレール 三段峡サミット参加
- 11月9日 11月運営会議
- 11月14日 ひたち未来シンポジウム参加
- 11月26日 11月例会

今後の予定

- 12月1日(水)まちづくり懇談会オープンセミナー
「まちなか駐輪場の適正配置と放置自転車について」
- 12月7日(火)12月運営会議
- 12月11日(土)どうする京都の交通とまちづくり
参加(清水)
- 12月18日(土)臨時総会・ROBA忘年会
- 12月随時 まち色めぐりツアー(風流塾共同)

ゆうじんの部屋 書籍紹介

行政経営の時代 徳山日出男

日経BP社 1,905円+税

ISBN4-8222-2037-0

著者の役職、国土交通省道路局企画課道路事業調整官は、道路関係予算すべての配分をとりしきるポストであり、日本の道路行政の実務のすべてを握っている人と言っても過言ではない。行政の評価、ユーザー主義など、行政のあり方が前半、道路種別別に行われてきた道路行政が、目標別になんて変わってきているといった話が後半。日本の道路行政の向かっている方向がよくわかる本であり、道路行政の外の人にはおすすりである。個人として書いている本ではあるが、やはり半分行政本であり、現在の道路行政の方向性に批判的な記述は見当たらない。

ただ、目標達成型行政になると、道路行政は総合交通政策を取らざるを得ないはずであるから、具体の現場の道路行政が目標管理型になっり、道路を作ることに目的を見出しているようであれば、それを批判する武器として利用価値の高い本であろう。(美濃部)

ROBAゼミナール in まちづくりフェア

開催日 平成 16 年 10 月 23 日 (土) 13:30~17:00

開催場所 えきまえ KOOCAN (旧生活創庫)

参加人数 30 人

昨年はこのフェア・この会場で乗り継ぎ調査隊のワークショップをしました。今年は「まちなかに住む5つの魅力」と題して、5人の方が地域の活動を報告して下さいました。



コト・イネター：野嶋先生

都心居住とは郊外居住を押さえたりまちをコンパクトにするのではなく、住むという選択肢の中に都心居住があるんです…。と、まちなか居住について分かりやすく説明中！



松本地区の事例（米田さん）

高齢者が住みなれた地域で暮らしていくための、まちなかでの新しい住まい方の事例です。空き家を利活用し、高齢者のデイサービスと託老・託児施設がオープン。365日24時間介護の必要な高齢者から健康な高齢者までが安心して暮らせるシステムづくりをしていると報告。



春山地区の事例（鈴木さん）

まちづくりのコンサルタントとして関わってきたことを話して下さいました。単なるルールでなく、生きたルールを作っていきたい。また、花植えを通して住民同士の連携や、地域の子どもや大人が社会貢献や植物を慈しむ気持ちを育む芽がでてきたと報告。



宝永地区の事例（田中さん）

あるNPOが養浩館のリアップを開催したのがきっかけで、地域でこの宝物を育てていこうと決めました。お年寄りが行灯の骨組みを作り、小学校の子どもは行灯用の絵を描き園路に並べ、地域のお茶の先生はお茶会を催し、菓子組合では和菓子の実演とそれを茶会に出したり。来てくれる皆さんの温かさがあるからやれるんです…。と報告。



ROBAの会（内田さん）

まちの中は沢山の便利・魅力が詰まっています。今まで感じたことの無い生活があるんですよ…。と。そしてなんと！報告してくれた4地区は偶然にも、すまいるバス（赤）の沿線地区で、福鉄・すまいる・自転車・徒歩、移動を考えてもまちなかは魅力的なトコロだね。という事が判明！



たわら屋の報告（清水さん）

田原町商店街で空き店舗を活用した交流拠点をつくって、それが地域にどのように映るのか。と言うことで、福井大学と商店街が共同運営し、たわら屋をスタート。ここを拠点に福大の写真展・コンサート・お茶会・打ち水などの活動を通して、商店街の人や地域の人達・大学生が交流を通して少しずつ変わってきた…と報告。



あっ！鈴木さんと岸本さん発見。



建築の仕事をしている女性の方が感想を言っていました。



会場の様子

まちづくりウォークに行ってきました！

開催日 平成 16 年 10 月 24 日 (日) 9 : 30 ~ 12 : 00
歩いた場所 えきまえ KOOCAN (旧生活創庫) を出発
JR 福井駅屋上 ~ 三の丸ビル ~ 駅前地下駐車場 ~ ガレリアポケット
~ 柴田神社 ~ アップルロード ~ 響のホール
参加人数 50 人



いざ！出発



現在の駅舎屋上から、「うわ～きれいやのぉ～」と、新しい駅舎をあっちから・こっちから眺めました。でも、意外と小さかったナ。



小さく感じた新しい駅舎も、地面とセットで見ると案外大きいかも…。いよいよ、あと 5 ヶ月ほどで高架に切り替えですね。



地下駐車場の工事を覗きました。去年は発掘中だったので意外と面白く、この遺跡を残したいね。と話をしていましたが、今年は鉄骨が目立ったので素通り…。



ガレリアポケットで、ベンチに座りながら説明を聞きました。私の姪達は、「あっ！ここスクラッチの場所やぁ」とテレビで見る風景を実感してました。座面が高いベンチによじ登って、「いー眺め」と言って動かず…。



城の橋陸橋の撤去について説明を聞いています。「ほーお。なるほどのぉー」と聞き入っていました。



ガレリアポケットで、な～んか いい匂いと思って、鼻をひくひくさせながら匂いの元を辿ったら、お店が出来ました。このお店は鳩の門通りであって、パチンコニコニコの斜め向かいです。ほんの暫く歩かなかつたら、お店があつて、びっくりやら…嬉しさやら…。がんばれっ！



ここから煙りが...
お香でした。

終わりに...
今年で 2 回目の参加です。リニューアルに向けて確実に進んでいることを実感します。まだ若い私ですが、昔の風景が様変わりしてしまう事に寂しさを感じる一方で待ち遠しい気持ちもあり、ただ、新しいまちがみんなに愛されるように、好きになってもらえるようになれば、それだけで満足です。

第7回全国路面電車サミット in 高知に参加しました

(高橋 八州太郎)

【はじめに】

全国路面電車サミットは、第7回を数え、今年が高知市で平成16年10月24日、25日、26日の3日間開催された。ROBAからは、佐藤副会長と高橋が参加してきました。

高知といえば、「坂本龍馬」、「桂浜」などの観光資源がある都市です。JR高知駅から路面電車の電停へ傘をささずにいけるという利便な街でもあります。まずは、下の写真をご覧ください。



右が高知駅。庇があり、雨に濡れずに土電のホームへ行ける。(福井でもやりたいね)

高知駅と路面電車の位置関係

(祝・路面電車サミットのきれいな飾りが電車の先頭に)

【路面電車サミット1日目】

第6回ユニバーサルデザインシンポジウムを兼ねた第7回路面電車サミットとして開催された。

第6回ユニバーサルデザイン/シンポジウムセッション

初日は、「都市における路面電車の存在意義？」とし、1時より国交省・道路経済調査室長/深澤氏より基調講演があった。路面電車への愛着を切々と訴えると同時に路面電車だけでは都市の基盤にならないとし、5つの観点からみることを提案。

地域デザインの確立(どのような街を目指すのか?) 公共交通の選択(多様な支援策の活用) 自転車と公共交通との連携・分担 路面電車に求める役割(環境?バリアフリー?) 地域社会の合意形成(関係者の強力・支援)。更に、特にバスへの支援策について右図のように示していることは、全国都市再生モデル調査でやったこととバスマップサミットでの成果を的確に表現していると思う。改めて、私たちの活動が国の施策に沿っていることを実感。

次いで、高知工科大学の寺部助教授が、土電(とでん・土佐電鉄)の利用実態をアンケートを通して、利用者は学生と高齢の女性が多いことが判明。今後の公共交通政策はこのことを踏まえるべきとの意見を述べた。

後半のシンポジウムは、高知市長、商店代表者、シルバー団体福井議員(衆)でコーディネーターは地元シンクタンクの理事長が努めた。その中で印象に残ったのは商店代表の方が中心となって実行した「童謡電車」を運行、そのことでお年寄りの方が懐かしそうにして乗っていたということの報告がありました。新規の顧客をどう増やすかが課題と結んだ。



サミット風景

代表者会議

ウェルカムパーティの前の時間を使って協議がなされ、この日は新たな支援愛好者団体として、「堺ちんちん電車

守る会」と「路面電車ネットワーク」を新たな加盟団体として承認された。規約については、既に他界されているかが理事になっているとか、代表者が交代しているとか、明らかに違う場合は各団体が注意して訂正していこうとなった。

・次回の開催地は2年後の平成18年10月20日を中心として3～4日で長崎市で開催が了解された。（楽しみです）
ウェルカムパーティ

1日の締めくくりは「ウェルカムパーティ」です。高知のうまい料理に舌鼓をうちながら交流を深めた。その際、昨年まで福井のだるまや西武にいた方とお会いした。いまは土佐電鉄の企画部門にいるとのこと。その他、昨年の函館大会のときにお世話になった方との親交を深めることができた。

【路面電車サミット2日目】

イベント

午前中は土佐電鉄所有の「世界の路面電車」の乗車体験をすることができた。

私はドイツの路面電車に乗車した。路線図や運賃マップなどはそのままである。なかなか雰囲気があってよかった。但し床は高いままのもであった。

第7回全国路面電車サミット

事例紹介と提言「全国路面電車活性化の動き」が開催された。

まずはじめに相澤副大臣が挨拶され、路面電車・LRTをめぐる動きはますます活発化されている。また、こうした日本各地から参加された愛好支援団体の存在は大変大きいと賞賛、また国会議員も超党派で推進議員連盟を組み、頑張る決意をされた。

各地近況発表

岐阜未来研究団の堀氏が岐阜市内線の廃線問題の現況について切々と訴えていたことが印象的であった。かなり厳しい現実に各地から「がんばれ」とのエールがなされた。又、その他の地域も近況を報告しあった。ROBAにとっては、昨年承認されて初舞台です。佐藤副会長が力強く発表された。そのせいか、バスマップの売行きが好評で、30部売上、6600円の収入となりました。（お買い上げありがとうございました。）

夜(懇親会)

2日目が終わりに、札幌、岐阜、枚方そして福井のメンバーで夜の高知でグラスを傾け、互いの健闘を称えつつ、高知の食、酒をたしなんだ。

【路面電車サミット3日目】

第6回ユニバーサルデザイン・

シンポジウムセッション2を開催。路面電車(車輌、軌道等)を安価につくるには、どうしたらよいか?をテーマに国交省の方が純メカニカルな

観点から説明がなされた。また、LRTも国産化を目指す過程で、広島電鉄

・中尾氏から広島市JR横川駅における実例をあげて説明。広電の電停をJR横川駅構内に設置、雨に濡れないで路面電車に乗ることができることの報告がなされた。シンポジウムでは、政策大学院大学の森地教授が講演のなかで「日本でトランジットモールの適地は福島と福井だけだ」と言われた。更に福井大学の本多先生とは親交がある事なども話された。今回のサミットの中で、RACDAの岡さんをはじめいろんな方が「福井」という地名を出していただいた。最後に土佐電鉄は6分に1台の割合で運行している。市民の足という意識がある。低床車は1台しかないが、頑張っている。また実験段階ではあるが部分的に芝生の軌道敷があり、街なかでみる「緑」は、環境的にも視覚的にもいいものである。ぜひ、福井でもとやってみようという思いがした。（北陸地方の芝生産は福井が先人なんだ。知ってた?・芝政ワールドが原点だよ。可能性あり?）



私が乗ったドイツ製の路面電車



ROBAの報告をする佐藤副会長

日仏景観会議高岡に参加 041002

日仏景観会議高岡に10月2日に参加してきました。吉久コースには、ほかに内田、清水が参加しました。また、高橋が金屋コースに参加しています。越前花堂駅から、P & R , K & Rで出発し、マップサミット後の活動内容を話したり、居眠りしたり、のんびり鈍行の旅でした。金沢からは吉田さんが乗ってきて、同行しました。集合場所の高岡駅前再開発ビルは参加者であふれていましたが、てきぱきと受付処理がされていて、混乱はありませんでした。いろいろ細かで便利そうな受付グッズがあり、今後の参考になりそうです。要は、事前準備ではあるのですが。

さっそくガイド役を先頭に万葉線へ。まずは、ホームT Oホームの説明。残念ながら、電車とバスが並ぶシーンは見られませんでした。でも、ホームの柱にかかれた沿線案内や、バス停ポールは、しっかりとデザインされたものでした。電車は、参加者でほぼ満員。市街地を抜けて、郊外へ。

道路がだんだん狭くなり、電車が止まってみんなが降り始める。残った人は4人、満員の乗客は、イベント参加者だったようだ。降り立ったところは電停というより、道の真ん中、道路の白線が電停だ。岐阜の電停と同じようだが、横断歩道がない。通りかかった車は通り抜けられないため、止まって待っていてくれる。あまりたくさん降りてくるので、運転者もびっくりしている。もう少し、安心して利用できる工夫が欲しい。車が止まってくれるというマナーにだけ頼っていてもいけないのだろう。吉久の集落入り口には、大きな案内看板。地図の下図は、航空写真。とっても見やすい。区長さんと、2人のボランティアガイドさんが案内してくれる。ただし、ガイドさんはここは初めてで、勉強したてだそうだ。

次に迎えてくれたのは、古い立派な街並みと地区の子供たち。男の子は、獅子舞。女の子は、横笛と太鼓。指導に当たっている青年団が5 , 6人一緒に参加している。クライマックスでは、みんながいっせいにカメラマンになってシャッターを切っている。地区の若者と子供たちがしっかりと伝統を受け継いでいる。一緒に見物しているお年寄りたちも、目を細めてうれしそうに眺めている。昔を思い起こしているのだろうか。子供たちの祭りへの参加によって、地区の新旧住民の親土の輪も広がってきたそうで、ここでも「ちくのまつり」が「まちづくり」になっていることがうかがえました。街並みの内の一軒、立派な家を見せてもらった。登録文化財に認定されていて、ご主人は誇らしげに家具調度品も案内してくれた。庭も手入れされていて、今もすみ続けながら、守りつづけている。次は、小さな神社のちっちゃな狛犬。地域の宝だそうな。素材は、なんとシャク谷石。北前船で福井から持ち込んだもので、昔から地域が繋がっているのだ。

お昼はお寺のお御堂で、報恩講の精進料理。(他の2人は箱弁、私だけごめんなさい)
食後は再び電車に乗って、メイン会場へ。途中、他のイベントのまち歩き団体が乗り込んできて、乗車率200%で朝のラッシュ状態。二駅ほどで降りていったが、まち歩きのショートカットとして、路面電車がうまく使われている。前半のまち歩きで、今日の大半を満足できたイベントでした(午後のセミナーは省略、機会があれば後日)。

高岡の皆さんありがとうございました。

報告：林 博



第 25 回まちづくり懇談会報告

日 時：11 月 4 日（木）19:00～21:10

場 所：活動センター（県民会館 5F）

参加者：ROBA/清水,佐藤,川口,高橋,水野,内田

まちなか NPO/永井,村北,伊井,古市 その他 馬來田

議 題：『まちなか駐輪場の適正配置と放置自転車について』

まちなかの駐輪の現状報告 <高橋さん>

9 月 10 日,12 日,14 日に 20 箇所にわたって朝・昼夕の 3 回調査を行った時の内容の報告があった。多いときで,675 台の自転車が停められていてその多くは,歩道上の空いたスペースを活用していた。現在の公的駐輪スペースは約 1,400 台程度。

福井駅周辺駐輪場整備計画策定委員会報告書の説明

（警察,商業,教育,学識,行政等 21 名） <伊井さん>

- ・ 目標年次は平成 23 年
- ・ 駐輪場整備区域の設定（放置自転車が著しい、または、将来著しくなると見込まれる場所）
- ・ その区域を業務地区,商業地区,駅前地区の 3 ヶ所に区分けして分析その結果,3 地区で約 2,400 台を確保する必要があると予測している。基本方針として自転車は使い勝手の良い有用な交通機関であり,都市交通体系の主な構成要素の一つに位置付けて,5 つの駐輪対策の方向性を示している。

ご近所の底力（NHK 番組放映済み）ビデオ上映

問題点と対策について討論

- ・ 通勤通学に利用している駐輪スペースの対策と買物用途は切り離して検討が必要
- ・ 商業地区での歩道の駐輪スペースの活用については、商店主も加わり合意できるルールが必要
- ・ 高架下の駐輪場（2000 台収容）は台数的にはカバーできるものの利便性を考えると問題が残る
- ・ 賑わいの道として景観も含めて,まちなかとして相応しい環境をみんなで作っていかねばならない・・・他

次 回：開催日 12 月 1 日（水）19:00～21:00

場 所 県民活動センター（県民会館 5F）

議 題 『商業地区における駐輪場と放置自転車問題』

（宿題）参加される方は、商業地区の駐輪の状況を自分の目で確認して下さい。

<ポイント>

- ・ 駐輪場内の駐車か ・ 1 日の台数の変化 ・ 長期放置らしき自転車はあるか
- ・ 歩行者の妨害になっていないか ・ 自転車通行帯の妨害になっていないか
- ・ 安心して止められる場所は？ ・ 消火栓、点字ブロックを塞いでないか
- ・ 全体の景観はどうか・・・等

福井工業大学が駅前の駐輪について調査した論文があります。参考にしてください。

<http://www.geocities.jp/robanews/b001.pdf>

<http://www.geocities.jp/robanews/b002.pdf>

（内田）

< 臨時総会 (NPO法人設立総会) >

日時：12月18日(土) 18:00～19:00

場所：県民会館7F 701号室(活動センターではありません)

議案：NPO法人について 定款・理事その他の承認事項

なお、事務局から、総会案内とともにNPO法人定款(案)を事前に会員へ郵送でご案内いたします

< 忘年会 > 臨時総会終了後

時間：19:30～21:30

場所：赤茄子亭(とまとてい) ターミナルホテル福井1F

会費：未定 (宿泊希望者には優待料金でご案内)

変集長のひとりごと

20××年 永平寺へ直通転開始!

JR北海道では、1台で線路も道路も走ることができる、DMV(デュアル・モード・ビークル)を3年後の営業運転をめざし開発中だそう。製作費も鉄道車両が1億円以上に対して約1500万円と低額とのこと。実用化に向けた車両はマイクロバスぐらいの大きさで、40人乗り、速度70キロが目標。

近い将来、この車両を使った観光バスがえち鉄を經由して永平寺や東尋坊へ直通運転を始めるかも知れませんね。

また、機動性があるので、混雑時のフェニックス通りではDMV型路線バスが福鉄線路を走り、定時走行に貢献するかもしれませんね。

作/漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「最終に近い路線バスは、法定スピードを守らず暴走バス化していますね」

清水(副編集長)

「今、未来に思いを馳せています」

川口(副編集長)

「修論でモビリティマネジメントをやっています。結果をご期待ください」

内田(発行責任者)

「今年も“あっ”という間に終り。何か成長したな？」

事務局

ふくい路面電車とまちづくりの会

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>